

鳥取県社協だより

志あわせ

Winter
第245号

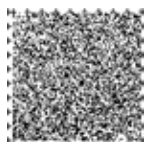
令和6年
1月1日発行



切り絵：金持神社／紙原四郎（とっとりいきいきシニアバンク登録）



音声コード「Uni-Voice」を
印字しています。音声コード
をアプリで読み込んでい
ただくと音声流れます。



音声コード Uni-Voice

もくじ

■ 令和6年 新年のあいさつ 鳥取県社会福祉協議会 会長 藤井喜臣	2
■ 令和5年度鳥取県高齢者健康運動会	2
■ ねんりんピック愛顔のえひめ大会	3
■ ねんりんピック鳥取大会PRで大会ボランティア活躍!!	3
■ 社会福祉法人による「地域における公益的な取組」紹介	4～5
■ 令和5年度社会福祉施設BCP策定支援事業	6
■ 鳥取県自閉症協会とDWA T共催 「災害時避難想定デイキャンプ」	6
■ 令和5年台風第7号災害に関する活動について	7
■ 市町村社協先進地視察研修	7
■ 「福祉の就職フェア&ガイダンスとっとり2024春」を開催します!	8
■ 鳥取県保育士・保育所支援センターの活動紹介	8
■ 相談支援員さんの力になります ～生活困窮者自立支援制度人材養成研修（都道府県研修）～	9
■ 介護の入門的研修を開催	9
■ 企業・団体による寄贈	10
■ とともに生きる 令和5年度 福祉教育推進セミナー開催	10
■ 地域での自立した生活の支援に向けた運営監視	11
■ 赤い羽根共同募金	12～13
■ 賛助会員を募集しています	14
■ 御寄付御礼	14
■ 鳥取県福祉研究会研究発表会のご案内	16

令和6年 新年のあいさつ



鳥取県社会福祉協議会
会長 藤井 喜臣

皆さん明けましておめでとうございます。昨年はコロナ感染症が収束に向かい、日常生活が戻ってきた一方で、「長期間の夏」の猛暑、そして台風7号による県内での大災害など、厳しい年でもありました。今年こそ、明るく、穏やかな年となつてほしいものです。

今年の干支は、甲辰(きのえたつ)です。甲辰は「成功という目が成長していき、姿を変えていく」といった縁起のよさをもっていると言われていいます。前回の甲辰の年は1964年で、「(第1回)東京オリンピックの開催」、「東海道新幹線の開業」など、日本が大きく発展していく飛躍の年でありました。しかし、飛躍の陰で失われたものもあったように

思います。

日本は今、残念ながら低成長の時と言えます。もちろん経済の発展は望みたいものですが、私たちは平穏な日常生活、人との良好なつながり、社会の支え愛の中に、幸せを感じることがあると思います。これからはより感じるようになるのではないのでしょうか？

今後、人口の減少による福祉人材の不足などの課題が生じるとは思いますが、私たち社会福祉協議会の活動により、県民一人ひとりの福祉の心が広がり、私たちが目指す共生社会の実現という「芽」が「成長」していく年になることを、「年男の私としても」皆さんと一緒に願う次第です。

令和5年度鳥取県高齢者健康運動会

高齢者健康運動会を開催しました。この運動会は、スポーツ競技を通して日常生活における健康づくりや仲間作りの大切さを認識し、活力ある長寿社会になるための健康づくりを目的として毎年開催しています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を減らし規模縮小、競技種目を減らすなど、形式を変更しての運動会となりましたが、4年ぶりに県内の3地区すべてで開催できました。

また、今年度は3地区で行う競技種目を個人種目の福つり、市町村対抗の団体種目を玉入れ、ラダーゲッターの計3種目に統一しました。さらに、団体種目は各地区1位のチーム得点により、県下1位のチームに賞状と賞品を贈呈しました。

運動会当日は、どの地区も久しぶりの交流や、自分のチーム以外のフラインプレーにも拍手で盛り上がる、楽しい時間となりました。

〈東部地区〉

日時 令和5年11月9日(木)
会場 鳥取市民体育館
エネトピアアリーナ
参加人数 256人
成績

◆玉入れ 優勝 岩美町

◆ラダーゲッター

優勝 鳥取・佐治

〈中部地区〉

日時 令和5年9月29日(金)
会場 倉吉体育文化会館
参加人数 230人
成績

◆玉入れ 優勝 倉吉市C

◆ラダーゲッター

優勝 三朝町A

〈西部地区〉

日時 令和5年10月20日(金)
会場 米子産業体育館
参加人数 247人
成績

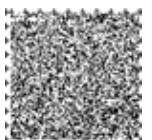
◆玉入れ 優勝 伯耆町B

◆ラダーゲッター

優勝 伯耆町A

〈県下1位〉

◆玉入れ 岩美町
◆ラダーゲッター 鳥取・佐治



ねんりんピック愛顔の えひめ大会

鳥取県選手団はばたく

第35回全国健康福祉祭えひめ大会（ねんりんピック愛顔のえひめ2023）が、10月28日（土）から31日（火）の4日間にわたり愛媛県で開催されました。

大会には47都道府県と20政令指定都市から約1万人が参加され、鳥取県からも24種目153名の選手監督が参加してスポーツ・文化の交流大会で競技や交流を楽しみました。

28日（土）の総合開会式では、各選手団とも選手20人で入場行進を行い、スタンドでは鳥取県選手団の皆さんが、とっとり大会のPRキャラクター「あおやかみじろう」のタオルを振って力一杯声援を送りました。

29日（日）からは県内一円で29種目のスポーツと文化の交流大会が行われ、鳥取県の選手の皆さんも日頃の練習の成果を存分に発揮され優秀な成績を残されました。

来年度はいよいよ鳥取県でねんりん

ピックが開催されます。えひめ大会を超える感動と情熱を期待したいと思います。

【主な上位入賞の皆さん】

○個人種目

水 泳 2位 前田 京子

（70〜74歳背泳ぎ

25m及び50m…女

マラソン 5位 古田 二郎

（60〜69歳10km…男）

○団体種目

将棋 団体戦 3位

ソフトテニス ベスト8

ゲートボール（倉吉） ベスト8



ねんりんピック鳥取大会PRで大会ボランティア活躍!!

ねんりんピックはばたけ鳥取2024の開催に向け、種目別リハーサル大会が令和5年9月から11月にかけて開催されました。リハーサル大会や県内の様々なイベント会場でねんりんピック鳥取大会のPR活動が実施され、大会ボランティアも参加しました。

種目別リハーサル大会では県内外から多くの選手が参加し、大会ボランティアがグッズを配布しながら「来年の鳥取大会もよろしくお願ひします」と声をかけていました。また、県内で開催された様々なイベントではニュースポーツの体験も行われ、子どもからお年寄りまで多くの方が参加しました。参加したボランティアは「上手ですね」「惜しい！もうちょっと」などと声をかけ、一

緒に楽しみました。

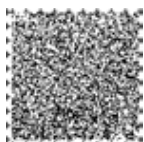
ねんりんピック鳥取大会では、県内全19市町村でスポーツ・文化に関する29種目が実施され、延べ約40万人の方が参加されます。また、地域文化伝承館や音楽文化祭、ふれあい広場、ニュースポーツ体験など、年齢にかかわらず楽しめるイベントも開催されます。ねんりんピックに参加し、県外から来られる方と一緒に大会を盛り上げましょう。

大会ボランティア募集中!

募集期間 令和6年5月31日（金）まで
 活動内容 大会PR活動、おもてなしに関する意見交換会、大会の運営補助（受付・案内等）
 募集要件 県内に在住、在勤または在学している方
 ※個人・団体を問わず応募可
 応募方法 ねんりんピックボランティアセンターHPの応募フォームに入力いただくか、応募用紙に必要事項を記入しご応募ください。



HP



社会福祉法人による

「地域における

公益的な取組」紹介

社会福祉法において、社会福祉法人の責務とされている「地域における公益的な取組」について、県内の社会福祉法人の取組みをシリーズで紹介しています。

今回は、大山町社会福祉協議会の実施するリユース事業「リテラス」の取組みと、イベント出展を通じた八頭町社会福祉協議会八頭町福祉支援センター「ほっと」の取組みを紹介します。

社会福祉法人 大山町社会福祉協議会

リユース事業「リテラス」

子どもたちの未来が
明るく照らされますように

【取組みの経緯】

以前参加したえんくるり事業の相談員連絡会で、他法人のリユース事業を知りました。当時、新型コロナウイルスにより多くの子育て世帯が影響を受けており、今後学用品を必要とする家庭や子どもたちに対して私たちが

支援をしていきたいと考えていました。そんな中、令和4年度に学習机の提供依頼がありました。フェイスブック等で発信し、無事にお譲り先が見つかったこともあり、今年度からこの取組みを事業化することを決定しました。

事業名の「リテラス」には、この地球で生きていく私たち、そしてこれから生まれてくる子どもたちの未来が「再び」明るく「照ら」されますようにという想いが込められています。

【取組み内容】

学校の制服などを寄付していただき、必要としている方へお譲りしています。現在は中山小学校の制服、鳥取県内（主に中、西部）の高校の制服の寄付を募っています。中学校の制服については、来年度から制服のデザインが変更されるため、今年度の寄付受付は見送ることとしました。譲り受けたい方は電話でお問い合わせいただき、サイズ確認や試着をする流れになっています。生活に困窮している家庭だけでなく、必要としている方に広く提供できればと思います。

当会の広報誌や、フェイスブック、

インスタグラムで情報発信をしていますので是非ご覧ください。

【取組みによる成果】

令和5年11月時点で、制服15着、学習机1台の寄付をいただきました。ご縁があり子どもへの学習支援を利用されている方へ学習机のお譲りができました。



【活動者のコメント】

・以前から環境問題に関心があり、制服を作って数年使用し処分するのはもったいない、資源を循環できたらと考えていました。子育て世帯を含め、少しでも暮らしやすいように町民の方の支えとなると嬉しいです。

・事業開始前は不安もありましたが、寄付をいただけただけで安心していきます。大山町が子育てのしや



リユース事業ご担当者（左から原さん、郡さん）

すい町、と思っただけのよう、寄付を募る中で譲渡の体制も整えていきたいです。

【寄付をしてくださった方の声】

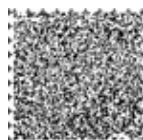
・制服にはたくさんのお思いがありますが、クローゼットの中で眠らせておくよりも、誰かのためになればと思いい寄付しました。大切に受け継いでもらえたらうれしいです。

事例提供法人

社会福祉法人 大山町社会福祉協議会
本部所在地／鳥取県西伯郡大山町末長503
電話番号0859(39)5018
(代表番号)
FAX 0859(39)5021
名和支所／鳥取県西伯郡大山町御来屋407
中山支所／鳥取県西伯郡大山町赤坂764
法人HP /
<https://daisensyakyo.org/>

他に実施している公益的取組み

地域との交流、食糧支援、公用車を使用した買い物外支援助など



社会福祉法人八頭町社会福祉協議会 八頭町福祉支援センターほっと

子育て支援フェスタinやす 〜リユースイベントを通じた 相談支援の取り組み〜

【取組みの経緯】

八頭町福祉相談支援センター「ほっと」では、暮らしの中での不安や困りごとを抱えて、周りに頼れる人がいない、どこに相談したらいいかわからないなど、一人で悩んでいる方等への支援を行なっています。抱えている問題について一緒に考え、行政機関や他の支援機関と連携し、生活が少しでも良い方向に向かうようお手伝いをしています。

この取り組みの中で、リユースイベントを通して、特に子育て世帯等の困りごとなどが相談につながればとの思いから、昨年度「ほっと」主催のリユースミニフェス「ほっと市」を開催し、町子育て支援センターにご協力をいただきました。今回は子育て支援センター主催の子育て支援フェスタからリユース品の提供依頼があり、えんくるり事業からリユース品を活用させていただくとも「ほっと」も出展し、広報活動の一

環として相談支援の取り組みを周知していくこととなりました。



【取組み内容】

子ども服リユースをとおして、必要な方に届いて欲しいと思い取り組んでいます。また、生活に困りごとを抱える子育て世帯に対し、相談を「ほっと」につなげるきっかけづくりとして実施しています。

【取組みによる成果】

・ 昨年の「ほっと市」では、生活支援や情報提供の場として「ほっと」の周知を行ったことで新たな相談につながったケースもあります。
・ 今回のイベントブース出展でも「ほっと」の存在を知ってもらい、どんな困りごとでも、困ったときに相談できる場所と認識してもらいたいです。

【活動者「コメント」】

・ 来場者の方々が笑顔で楽しそうに過ごされており、こちらも楽しい時間を過ごせました。
・ 困窮している状態の方々の多くは、自分から困窮しているとは思えないにくい、自覚があまりない等様々な状況で相談につながっていないケースがあります。自分たちの存在、場所を知ってもらい、利用してもらえれば嬉しいです。

【利用者の声】

・ 子どもの成長で服が必要なので、こういったリユースは助かります。
・ 今日はずごく寒いので、フリースやアウターがあつてよかったです。



事例提供法人

社会福祉法人 八頭町社会福祉協議会

本部所在地 / 鳥取県八頭郡八頭

町宮合254-1

電話番号 0858 (72) 6210

FAX 0858 (72) 2793

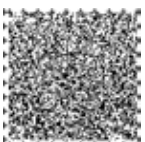
法人HP /

<https://yazu-syakyu.or.jp/>

他に実施している公益的取組み

・ 困窮相談、就労支援、

・ 家計相談、就労支援、法人連絡会など



令和5年度
社会福祉施設BCP策定支援事業

福祉避難所指定
社会福祉施設のBCP
策定モデル施設完成報告会

11月6日に新日本海新聞社中部本社ホール(倉吉市上井町)で「BCP策定モデル施設完成報告会」を開催しました。

報告会では、佛教大学専任講師 後藤至功(ごとうゆきのり)氏を講師に迎え、特別養護老人ホーム 若葉台(社会福祉法人鳥取福祉会)の西垣正博所長補佐、介護老人福祉施設美和あすなろ(社会福祉法人あすなろ会)小林真司施設長からBCP策定についてそれぞれ報告をいただきました。

西垣所長補佐からは、地震を想定したBCPを検討し、9月4日に実施した避難訓練や、災害対策支部立上シミュレーションを行い、得られた気づき、講師の後藤先生からいただいた貴重なアドバイスなどの報告がありました。避難訓練の様子を動画で流し、分かりやすく説明をされました。また、福祉避難所に指定されていることから、福祉避難所を鳥取市からの依頼で運営のお手伝いをする事となった場合の「福祉避難所のしおり」が示されました。

避難訓練での気づき等は、第244号の「志あわせへ」に掲載していますのでよろしければご覧ください。

小林所長からは、土砂災害を想定したBCPを報告していただきました。美和あすなろはこの8月の台風7号により、実施に施設での避難を経験されました。その経験に基づいた報告がされました。避難では、職員体制を考慮し、大雨警報が見込まれる場合は、警報の発表を待つことなく、日中の職員体制のうちに避難を開始することとされました。また、実際の気象状況に合わせた施設の対応状況を時系列に報告され、大変参考となるものでした。

後藤先生からは、BCP策定に当たったポイント、BCPの全体像など分かりやすく説明をいただきました。また、両施設のBCPは大変良くできていますとの高評価でした。

当日は53名の参加者があり、報告後の質疑等も複数の方から質問をいただき、関心の高さがうかがえました。



■ 問い合わせ先 災害福祉支援センター ☎0857-30-6367 ■

鳥取県自閉症協会とDWAT共催

「災害時避難想定
デイキャンプ」

災害派遣福祉チーム鳥取県DWATは令和5年10月29日に鳥取県自閉症協会と共催で「災害時避難想定デイキャンプ」を実施しました。

鳥取県自閉症協会は自閉症当事者家族から「一般避難所で安心して避難生活ができるか不安」との声を受け、昨年度から避難所体験を計画。災害福祉支援センターに相談していただき、合同の企画となりました。

当日は県立福祉人材研修センターを会場に、自閉症当事者とその家族が5組とDWAT6人、普段、自閉症当事者を支援しているボランティア5人、鳥取大学医学部の院生3人が参加しました。内容は次のとおりです。

- ・午前中：避難所体験
- ・昼頃：非常食体験
- ・午後：座談会と一人で過ごす体験
- ・最後に：終わりの会

避難所体験ではDWATが支援をしながら当事者とその家族とともに、間仕切りの設置や段ボールベッドの組立を行い、その後、本人と家族へアセスメントしました。当事者自身も一緒に組み立てることにより、自分

の居場所だと認識し、落ち着いて過ごすことができました。

非常食体験では、食にこだわりがある人もいる中でいくつかの種類の非常食を準備し、食べたものを家族や支援ボランティアと一緒に自分たちで選んで食べる体験をしました。

午後は、当事者と家族で分かれば、当事者は支援ボランティアの見守りのもと、一人で過ごす体験。家族とDWATは座談会で避難所体験の感想や避難所の課題、ニーズについて意見交換しました。

終わりの会では当事者自らが避難所体験や非常食体験などの感想を話しました。また、当事者家族からは、「備えておくことで少しでも本人が落ち着ける環境で過ごせるようになりたいと思う」などの感想がありました。

鳥取県DWATとして、初めて当事者を含めた訓練を実施することができました。今後も実践を高めるとともに、要配慮者の方たちの不安の解消に向けた取り組みを行っていききたいと思います。

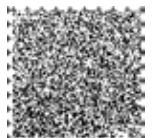


段ボールベッドの組立場面



DWATによるアセスメント

■ 問い合わせ先 災害福祉支援センター ☎0857-30-6367 ■



令和5年台風第7号 災害に関する活動について

令和5年8月15日台風第7号が襲来、県内に大きな被害が発生しました。鳥取市や八頭町、三朝町では各市町で災害ボランティア活動が実施されました。

鳥取県社協では、8月16日に先遣活動として、現地の社協等と連携し、被害状況の確認を行いました。そして、中でも被害の大きかった鳥取市の災害ボランティアセンター（以下、「災害VC」という）の立ち上げ・運営支援に入ることとなりました。災害VCとは、被災した地域や住民のもとへ「ボランティアをしたい」という思いのある人の力」を届けるための拠点です。鳥取市では、市と市社協が主体となり、災害VCを立ち上げられました。

鳥取県社協は平時から災害時においても、その様々な担い手が力をあわせることができるように調整・支援を行うことが大きな役割の一つです。今回の鳥取市災害VCでは社協だけではなく、鳥取市をはじめとして、日本赤十字社鳥取県支部やとっとり県民活動活性化センター、とっとり震災支援連絡協議会などの関係者が連携して

運営することができていました。また、県内外の様々な団体等から資機材や救済物資、ボランティア活動などの協力をいただき、鳥取市災害VCは活動を進められました。

鳥取市社協が平時から取り組まれてきた災害ボランティアに関する研修やボランティア団体との繋がりが生きています。また、災害VCに関する市との協定締結に向けた話し合いを進め、令和5年4月に締結できていたことも早期からの連携に繋がったと考えられます。

県社協としても平時から関係機関と災害ボランティア活動に関する会議を実施してきたことなどが災害時の連携に結びついたと思います。これからも関係機関とのネットワークづくりに力を入れ、災害時における連携体制の構築を図ります。



■ 問い合わせ先 災害福祉支援センター ☎0857-30-6367 ■

市町村社協先進地視察研修

社会福祉協議会を取り巻く社会情勢や地域の状況が大きく変化するなか、それらに対応した社会福祉協議会のあり方や今後の事業展開を考える機会として、市町村社協役員・事務局長とともに先進地視察研修を実施しています。

地域共生社会の実現に向けた具体的な事業として令和3年度より重層的支援体制整備事業が制度化されました。社協への期待はますます高まるなか、社協として本事業にどう取り組むのか、その基盤となる事業の展開等について学ぶため、先進的な取り組みをされている島根県の松江社協と大田市社協に伺いました。

「松江社協の取組み」

○公民館を基盤とした地域づくり

- ・公民館に地区社協事務局を置き、公民館を拠点とした地域福祉活動を展開。

- ・各地区で地域福祉活動計画を策定し、市地域福祉計画・活動計画へ反映。

○地域づくりの基盤を活かした総合相談の仕組み

- ・地域福祉ステーションを設置し、総合相談とコミュニケーションソーシャルワークを実践する拠点としている。

- ・複合的な課題に対応していく

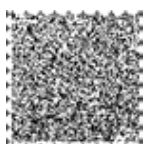
ため、関係機関との連携や市社協内の横断的連携を図るための会議を設置。
これらの取組みを基盤として重層的支援体制整備事業に取り組み。

「大田市社協の取組み」

○多様な主体ともに取り組みつながりづくり「こねくとプロジェクト」

- ・平成30年の島根県西部地震をきっかけに見えてきた地域の複合的、狭間の課題に対する支援体制づくりを進めている。
- ・多機関協働を進めるため、支援機関の実務者会議を設置。
- ・つながり支援に向け、重層的支援体制整備事業のアウトリーチ事業を通じた本人とのつながりや関係の構築、また参加支援事業を通じた本人の参加やつながりを広げる取組みを一体的に進める「こねくとプロジェクト」を展開。

参加者からは、「社協として取り組むべき事業を展開されており、刺激を受けた」などの感想があり、今後の市町村社協の事業展開の参考となる研修となりました。



■ 問い合わせ先 地域福祉部 ☎0857-59-6332 ■

「福祉の就職フェア&ガイダンスとっとり2024春」を開催します！

福祉の職場に就職・転職を希望する、または関心のある学生・社会人の方を対象に、県内で社会福祉事業を運営する法人の人事担当者等と職場や仕事に関して情報交換できる合同説明会を開催します。参加法人は決定次第本会ホームページで公開いたします。多くの方のご参加をお待ちしています。

「福祉の就職フェア特設サイト」開設！（1月下旬公開予定）

当日のプログラムや出展法人一覧、出展法人の募集内容など → 詳細情報はこちらよりご確認ください。



1 日時・会場

〔東・中部会場〕令和6年3月17日（日） 13：15～16：00
鳥取ワシントンホテルプラザ ダイヤモンドホール（鳥取市東品治町102）

〔西部会場〕 令和6年3月10日（日） 13：15～16：00
米子ワシントンホテルプラザ らんの間（米子市明治町125）



■ 問い合わせ先 福祉人材部 ☎0857-59-6336 ■

鳥取県保育士・保育所支援センターの活動紹介

★若い世代への保育の魅力発信事業★
「保育の魅力発信フェス」を実施しました



10月29日（日）、11月12日（日）に「保育の魅力発信フェス」を東部・西部の2会場で開催しました。

このフェスは、子どもを対象としたイベントに高校生がボランティアとして参加し、子どもとふれあうことを通じて若い世代への保育の魅力発信を行い、保育への関心を深めることを目的に実施したものです。

東部会場では160人の親子が、鳥取市男性保育士会「じゃんぐる☆じむ」による読書フォーラムで絵本作家による絵本の読み聞かせや、ワークショップを楽しみました。また、西部会場では50人の親子が米子市児童文化センター（ハロウィンイベント）内で実施したミニコンサートで歌ったり踊ったりと会場が一体となる盛り上がりとなりました。

どちらの会場でも高校生ボランティアは、参加した親子とのふれあいを楽しみながら一緒に活動しました。

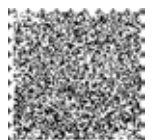
参加した高校生のアンケートでは、参加のきっかけとして「今後の進路の参考とするため」という方が多く、「子どもが喜ぶことを考えるきっかけになった」、「子どもの笑顔が見られて良かった」、「一緒に踊ったり交流が出来て良かった」などの感想がありました。

この体験が、将来の職業選択する際の参考になればと思います。

本センターでは、引き続き、保育や保育士の魅力を保育現場の皆さんと一緒に発信していきます。その他、保育の仕事や資格について知りたいなど、気軽にセンターまでお問い合わせください。



フェイスブックで随時情報発信します！



■ 問い合わせ先 保育士・保育所支援センター ☎0857-59-6342 ■

相談支援員さんの 力になります

生活困窮者自立支援制度 人材養成研修（都道府県研修）

生活困窮者自立支援制度人材養成研修（以下都道府県研修）では、生活困窮者自立支援制度において配置される相談支援員等を対象に、支援に必要な基礎的知識や支援員として求められる基本姿勢を学んでいきます。また、支援員相互の連携を深めることにより支援者としてのスキルアップを図ることを目的として、鳥取県から委託を受け本会が実施している研修です。

令和5年9月15日（金）に開催した都道府県研修では、「家計改善支援事業についての基礎理解とその取り組み」と題して、基礎理解を、社会福祉法人グリーンコープ顧問の行岡みち子氏に、取り組みの実践事例として、南部町社会福祉協議会の今井博明相談支援員をお招きし、2部構成で開催しました。

前半は行岡氏より、家計改善支援事業の制度説明や支援員の心構え、相談支援のプロセスを講師の経験や、フロー図を交えて丁寧に講義いただきました。

後半は、今井氏が家計改善支援員として、自立相談支援員と連携しな

から携わった税金滞納のある方の家計改善支援の事例をお話いただきました。支援を開始する上で、相談者だけを支援するのではなく、家族の協力が大事となります。キャッシュフロー表を活用することで、家族と共有でき、協力して家計改善に臨むことができました。相談者との信頼関係もでき、税金滞納が解消され貯蓄が出来るまでになったそうです。今井氏は、「自律支援」「信頼関係（安心感）」を大切にしているとのこと、自分の決めたルールに従い行動すること、支援は相談機関だけで行えるわけではない、多機関との連携も大事だとお話いただきました。

受講生から、「家計相談の現場ブロの話が聞けて良かった」や「どういう気持ちで支援に向かうのか。大切なことを教えていただきました」など好評の中、研修は終了しました。研修終了後も、受講生が講師へ質問を投げかけている場面を目にし、研修内容への関心の高さが窺えました。

困窮者からの相談内容が複雑化する中、日々支援をされる相談支援員のみならず、皆さんの力になる研修を、今後も開催していきたいと思っております。



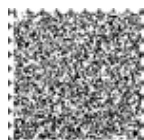
■ 問い合わせ先 地域福祉部 ☎0857-59-6332 ■

介護の入門的研修を開催

介護に関心がある方を対象に、「介護する人、される人が、お互いを支え合いながら安心して生活するにはどうすれば良いかなどを考えるきっかけを作っていただく」と、介護の入門的研修を7月から9月にかけて東部・中部・西部の3会場で開催しました。

受講者からは「介護についての基本を理解することができた」「家族（両親）の介護に役立てる事ができる」「講師の実体験を踏まえた話なので分かりやすかった」、中学生の参加者からは「介護で基本となることと、大切な事を教えていただけてよかったです」と言った声が聞かれました。

介護の経験がない方にも、介護の基礎を、現役の介護福祉士の講師が分かりやすく実技を交えながらお伝えし、家庭や地域において介護が必要になった時の不安感を解消できる研修となりました。また、人材不足が叫ばれる中、介護人材の養成につながっていただければ期待します。



■ 問い合わせ先 福祉人材部 ☎0857-59-6336 ■

企業・団体による寄贈

寄贈の申し出を受け、福祉団体系施設等へつなぎました。

①「使用済み切手・未使用はがき・未使用切手等」(因幡地区郵便局長会)



11月16日、因幡エリア56局の郵便局で集めた使用済み切手等の贈呈式を開催しました。

当日は因幡地区郵便局長会会長の山田一孝様より本会へ「福祉向上に役立てていただきたい」と目録が渡されました。内容は次のとおりです。

- ・使用済み切手 18, 130g
- ・未使用切手 1, 113枚
- ・未使用はがき 2, 432枚

使用済み切手は国際支援を行うNGOへ、未使用のものは新しい切手やはがきに交換して県東部の福祉団体やこども食堂に寄贈いたします。

②車椅子(株式会社ツルハホールディングスならびにクラシエ株式会社)

両社による全国的なキャンペーンにより本県でも5台の車椅子の寄贈があり、11月29日に贈呈式を実施しました。当日は(株)ツルハグループドラッグ&ファーマシー(西日本鳥取店 舗運営部長の天野貴博様が地域貢献献活動への思いを述べられた後、車椅子が贈呈されました。贈呈を受けたのは次の法人です。



- ・中部福祉会
- ・尚仁福祉会
- ・米子市社会福祉協議会
- ・智頭町社会福祉協議会
- ・南部町社会福祉協議会

■ 問い合わせ先 福祉振興部 ☎0857-59-6344 ■

ともに生きる

令和5年度 福祉教育推進セミナー開催

福祉SNSで繋がる、みまもりあい・ささえあい社会の実現方法

～「認知症の方が使えるアプリ」を用いて地域に温かなまなざしを～

地域が抱える課題について知り、「福祉の心」で解決していくために必要な「主体性」を育てることを目的として開催します。

日時 令和6年2月15日(木) 10時30分～12時

会場 倉吉未来中心セミナールーム3 (倉吉市駄経寺町212-5)

内容 (1) 講演「望まない孤独・孤立問題で、SNSが成すべき役割とは何か？」
(2) 体験実習「アプリの体験会」

講師：高原 達也 氏

「みまもりあいプロジェクト」代表理事
一般社団法人セーフティネットリンケージ代表理事

阪神淡路大震災をきっかけに、地域に昔から根付く「互助」の力に注目し、新たな社会貢献事業をしたいという想いのもと、互助とICTを融合させた地域課題を解決する事業として、「みまもりあいプロジェクト」を発足。



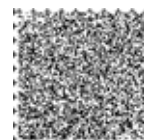
参加
無料



「みまもりあいプロジェクト」

2017年度、互助をICTがサポートする発想で生まれた「みまもりあいアプリ」を開発。

内閣府 地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム「優良事例」の受賞など多くの受賞実績があります。



■ 問い合わせ先 福祉振興部 ☎0857-59-6344 ■

地域での自立した生活の支援に向けた運営監視

福祉サービス運営適正化委員会

福祉サービスの利用は、以前は行政が利用希望者の意向を把握して、サービスの利用先を決定していましたが、社会福祉基礎構造改革により利用契約制度が導入され、現在は、利用する福祉サービスは自分で決めることとなっています。

個人の自立を基本とし、その選択を重視して質の高い福祉サービスを確立するための改革でしたが、判断能力が十分でない認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者の方などは、福祉サービスの情報や利用のしかたがわからず利用ができない場合があります。そのため、県社協では、福祉サービスの適切な利用の援助を行うとともに、金銭管理や行政手続きなどを支援する「日常生活自立支援事業」を市町村社協の協力を得て実施しています。

当委員会では、この事業が適正に運営されるよう「運営監視小委員会」において、県社協から事業の実施状況の報告を受け助言等を行うとともに、市町村社協の現地調査を実施して、県社協へ実施結果の講評を提出しています。

最近の課題としては、スマホによるキャッシュレス決済の利用管理の問題や市町村社協の法人後見との連携による切れ目のない支援、関係機関・権利擁護機関等との連携強化などがあります。

近年、事業の利用者は増えていますが、援助の必要な方はまだ多数おられると思いますので、さらに多くの方にこの事業について知って利用していただきたいと思っています。

委員会では、福祉サービスの利用援助が適正に行われ、誰もが、地域で安心して自立して暮らして行けるように、引き続き運営監視を行っていききたいと思っています。



運営監視小委員会

■ 問い合わせ先 福祉サービス運営適正化委員会 ☎0857-59-6335 ■

MORRIX JAPAN Corp.



私たちは人にやさしい快適環境を創造し、
未来をデザインするヒューマン企業です。

介護・自立支援・栄養管理・勤怠・給与・会計・セキュリティシステムから介護用品まで介護現場をトータルでサポート致します。
お客様の環境と問題点をお聞きし、事務の効率化、介護現場の効率化を共に考え最適なシステムをご紹介します。

■ 当社の取扱い介護・自立支援・栄養管理システムメーカー ■

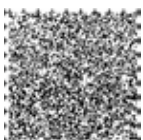
ND ソフトウェア株式会社 (ほのぼの NEXT)
株式会社 ワイズマン
株式会社 東経システム (福祉見聞録)
株式会社 日立システムズ (福祉の森)
株式会社 コーエイコンピュータシステム (EIBUN)

株式会社 モリックスジャパン

本社 〒680-0912 鳥取県鳥取市商栄町 203-6
TEL 0857-23-3641 FAX 0857-22-3329

倉吉店 〒682-0812 鳥取県倉吉市幸町 529
ユーマーレジデンス 1-3 号
TEL 0858-24-5451 FAX 0858-24-5452

モリックスジャパン





赤い羽根共同募金

～じぶんのまちを良くするしくみ～



応援したい団体・事業を選んで、寄付をお願いします

地域の福祉課題解決に向けて具体的テーマを掲げて取組む団体と、鳥取県共同募金会が協働して募金を呼びかける「つかいみちを選べる募金」を行います。本年度は令和6年1月1日（月）から3月29日（金）までの3か月間、5団体が募金活動を展開します。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和5年度「つかいみちを選べる募金」助成事業一覧

番号	団体名	事業名	募金目標額
1	公益社団法人 とっとり被害者支援センター	犯罪被害者等支援事業	1,000,000
2	特定非営利活動法人 子ども未来ネットワーク	子どもの笑顔発見プロジェクト2024	300,000
3	とっとり子どもの居場所ネットワーク “えんたく”	子ども食堂対象文化芸術体験事業	300,000
4	一般社団法人 鳥取県腎友会	慢性腎臓病の予防の推進と慢性肝臓病患者への情報発信	300,000
5	社会福祉法人 鳥取こども学園	おたべ食堂（地域食堂）	350,000
合 計			2,250,000



ハンセン病療養所の入所者の方へお見舞金を贈りました

本会では、ハンセン病療養所で生活をされている鳥取県出身者の方々へお見舞金をお贈りしています。岡山県の長島愛生園については直接訪問してお見舞金をお渡しました。

令和5年9月30日掲載の赤い羽根共同募金運動の開始を告げる新聞記事に協賛いただいた企業広告の売り上げの一部を、令和5年11月16日、株式会社新日本海新聞社様より、寄付金としていただきました。温かいお心遣いに感謝いたします。お寄せいただいた善意は本県の地域福祉の推進に活用させていただきます。

ありがとうございました。

日本海新聞社様より
御寄付をいただきました



(写真左) 新日本海新聞社 地域プロデュース局長 遠藤一郎 様
(写真右) 鳥取県共同募金会 会長 児嶋祥悟



赤い羽根共同募金の鳥取県版ポスターを作成しました

このたび鳥取県共同募金会では、募金のお願いや助成プログラムの案内など、様々な広報の場面で活用するイメージキャラクターを作成しました。今後、共同募金を皆さまによりご理解いただくためのイラストとして活用していく予定です。

デザイナーは県内各所でその作品を目にする機会があり、皆様もよくご存知のイラストレーターの伊吹春香さんです。レトロな雰囲気を感じつつ、優しく心癒される作品を製作される新進気鋭のイラスト作家です。

伊吹さんと共同募金の目的や県内の福祉課題について話し合いを重ね、素晴らしい作品に仕上げていただきました。様々な場面で披露しますので是非ご覧ください。



郵便局窓口で募金箱を設置 することでも合意しました

鳥取中央郵便局など県東部の郵便局10局と11月20日合意書を締結し、郵便局の窓口に募金箱を設置し、共同募金運動に連携して取り組んでいただくこととなりました。

募金箱を設置していただくのは、鳥取中央郵便局のほか県東部の9郵便局（鳥取東町、鳥取本町、鳥取立川、鳥取大正、鳥取湖山北、美穂、吉岡、国府宮ノ下、津ノ井）です。

期間は令和5年12月1日から令和6年3月31日までで、寄せられた寄附金は鳥取市共同募金会を通じ地域で活動する福祉団体などに助成します。

県内の郵便局は全147局ありますが、募金箱を設置しない局においても新たに作成したポスターなどで広報していただきます。

今後、市町村共同募金委員会とともに募金箱の設置が全県に広がるよう取り組むこととしています。

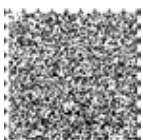


「物置設置事業」

特定非営利活動法人淀江作業所（米子市）

この度は、NHK歳末たすけあい助成金をいただきありがとうございました。令和3年夏より農産物生産を始めましたが、何も無い状態から始め、器具等を揃えるなかで収納する場所が無く、車の中に詰め込んだり、玄関まわりに散乱し、作業をするに当たっても準備に時間がかかる状態でした。助成金のお陰で物置を購入することができ、作業準備の短縮や、機械や資材をきちんと収納でき、保管・管理することができるようになりました。利用者、職員一同喜んでいきます。大切に使用させていただきます。

ありがとうメッセージ ～NHK歳末たすけあい～



■ 問い合わせ先 鳥取県共同募金会 ☎0857-59-6350 ■



賛助会員を募集しています



本会では、地域福祉の推進とみんなでつくる福祉社会の実現に向けて、

“県民参画による福祉のまちづくり” “安心して暮らせる仕組みづくり” “福祉を担う人づくり”
を中心に地域の様々な機関・団体と連携して、安心して暮らせる地域社会をめざしています。

賛助会員の皆様のご協力をいただき、県内の地域福祉をより一層充実していきたいと考えています。
本会の趣旨にご賛同いただき、会員としてご支援、ご協力をくださいますようお願い申し上げます。

会費（毎年度）団体 一口：10,000円

個人 一口：3,000円

【賛助会員になるには】

入会を希望される方は、鳥取県社会福祉協議会ホームページより加入申込書をダウンロードしてください。必要事項を記入の上、本会まで郵送してください。入会申込書受理後、会費納入のご案内をお送りします。

○申込書送付先○

〒689-0201 鳥取県鳥取市伏野1729-5 鳥取県社会福祉協議会 総務部

■ 問い合わせ先 総務部 ☎0857-59-6331 ■

御寄付御礼

（令和5年11月20日現在、順不同）

御寄付を賜り誠にありがとうございました。御意志に従い活用させていただきます。

〔地域福祉振興基金〕への御寄付

（生活困窮者に対する支援など、地域福祉の推進を支援しています。）

鳥取県大衆音楽協会 会長 西谷 勝歳 様

〔鳥取県ひとり親家庭等高等教育進学支援資金事業〕への御寄付

（ひとり親家庭や児童福祉施設に措置または里親に委託された子の大学等への進学を支援します。）

職場 18件 個人 70名

〔災害支援活動用品〕

マンダリンオリエンタル東京 様【ぞうきん1箱】

※寄贈いただきました用品は本会で保管し、災害支援活動に使用させていただきます。

■ 問い合わせ先 総務部 ☎0857-59-6331 ■



パソコン修理～ 介護ソフト～ 伝送設定～

OA機器 リース メンテナンス
有限会社 松本事務機



鳥取市千代水2丁目117番地

<http://values.main.jp>

☎ 0857-31-6661

FAX 0857-31-6662



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり) 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン			
		基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円			
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額	6,500円			
	手術保険金	入院中の手術	65,000円		
		外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額	4,000円			
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償		
地震・噴火・津波による死傷	×	○	○		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)			
年間保険料		350円	500円	550円	

商品パンフレットは
こちらから



(ふくしの保険
ホームページ)

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事 保険会社〉 **損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課**

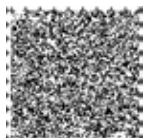
TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00 ~ 17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667

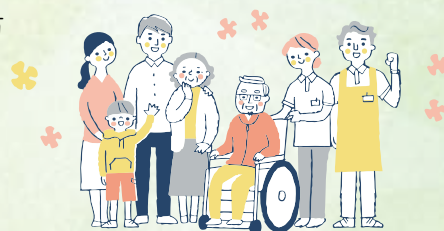
受付時間: 平日の9:30 ~ 17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)



鳥取県福祉研究学会研究発表会のご案内

- 1. 日時** 令和6年2月24日(土) 10:20～15:00(予定)
2. 会場 鳥取看護大学・鳥取短期大学 (鳥取県倉吉市福庭854)
3. 参加対象

鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している方
福祉に関する調査研究している方
その他福祉に関心を持つ団体・個人



- 4. 内容**
① 10:20～ 研究発表(口述発表及びポスター発表)

●口述発表 各分科会において、分野ごとに口述発表

【研究分野】 高齢者福祉(施設系・在宅系)、障がい児・者福祉、児童福祉、地域福祉、
その他社会福祉領域

●ポスター発表 ポスター掲示にて発表

※それぞれの発表要旨・時間については、2月9日以降に、県社協ホームページをご覧ください。

<https://www.tottori-wel.or.jp/>

- ② 13:20～ 基調講演・鼎談

糸賀一雄氏生誕110年記念

テーマ「糸賀一雄が思い描いた世界と今日的な福祉課題～実践と検証」

◆基調講演(13:20～13:50)

講師 ◇鳥取短期大学 幼児教育保育学科 教授 國本 真吾 氏

◆鼎談(13:50～14:45)

登壇者 ◇鳥取短期大学 幼児教育保育学科 教授 國本 真吾 氏

(コーディネーター)

◇あいサポート・アートセンター センター長 妹尾 恵依子 氏

(一般社団法人アーツスペースからふる理事長)

◇鳥取県手をつなぐ育成会 副会長 植村 ゆかり 氏

(特定非営利活動法人地域活動支援センターおおぞら代表)

- ③ 14:45～ 授賞式・閉会

5. 参加申込

「参加申込書」が必要ですので、詳しくは事務局までお問い合わせください。

6. 参加費

- ① 一般参加者・発表参加者 1,000円
② 学生・障がい当事者 500円

7. オンデマンド配信について

研究発表(口述発表)は、開催日以降オンデマンド配信による視聴が可能です。オンデマンド配信のみを希望される方は参加費の事前納付が必要です。

配信期間：令和6年2月27日(火)～令和6年3月11日(月)

8. お問い合わせ先

鳥取県福祉研究学会事務局(鳥取県社会福祉協議会 福祉人材部内)

電話 0857-59-6336 FAX 0857-59-6341

福祉関係者の皆様をはじめ、多くの方々の参加を心よりお待ちしております。

感染症の拡大や自然災害等のやむを得ない事態が発生した場合、本研究発表会を中止・延期、または開催方法を変更することがあります。中止等の場合は、県社協ホームページでお知らせしますので、参加前にご確認ください。

■ 問い合わせ先 福祉人材部 ☎0857-59-6336 ■

